

サンゴ礁海域の統合的沿岸管理基礎調査

太田 格*, 上原匡人, 海老沢明彦

沿岸水産資源は漸減傾向であり、その主な要因は過度な漁獲と沿岸環境の悪化にあると考えられる。沿岸の水産資源の回復には、抜本的な資源管理と環境保全の対策が重要であり、陸域を含めた統合的沿岸管理を進めていく必要がある。本事業では、水産重要種だけでなく、環境指標となりうる他種多様な沿岸性魚類について、漁獲実態、資源動向、生態、漁場環境を把握し、統合的沿岸管理策の基礎情報を整備することを目的とした。なお平成 23 年度から始まった本事業は今年度で終了した。

1) 漁獲実態調査

県内 9 か所の市場調査を週 2 回実施し、資源評価の基礎データとして、沿岸性魚類の漁獲体長組成を収集した。また、統計情報では得られない種組成の重量比

を把握し、種別漁獲量の推定に必要な基礎データを得た。

2) 資源管理策の検討

沖縄島周辺のタコ類の漁獲実態を把握するために、漁獲統計情報の解析と市場における漁獲物調査を実施した。漁獲物調査の結果、沖縄島周辺海域では主に 3 種：ワモンダコ、シマダコ、サメハダテナガダコが漁獲されており、重量比では約 98% がワモンダコであった。また、ワモンダコの漁獲体重組成と既往の成長・寿命・成熟等の生物特性を基に、資源管理策を検討した結果、現在の漁獲は、成長乱獲及び加入乱獲の兆候があり、漁獲圧を現状維持する場合、体重 2kg 未満の個体の漁獲禁止により、漁獲量を 1.3 倍、親魚量をより適切な水準に増加できることが示唆された。

* E-mail: ootaitar@pref.okinawa.lg.jp